

明日海^{あすみ}



菅野雪虫
三村久美子・絵

今日も風は海から吹いてくる。南東から北西の風。潮の匂いに混じって、重機の動く音が聞こえる。あれは除染か、それとも瓦礫をどこかへ運ぶ音か。

「仙台って言ってもさあ、田舎だったから、ことあんまし変わんねがったよ」

「えー？」

「うっそー！」

あたしとようちゃんは、まおちゃんに思わず突っ込んだ。「ほんとだよ。仙台だったって山の方だもん。団地と畑ばっかだった」

あたしは何となくがっくりした。仙台と言えば華やかな駅やホテルやアーケード街や、駅ビルのエスパルやおしゃれなロフトや、とにかく「都会」ってイメージだ。もちろん、海の方はあの地震と津波で相当やられたけど、復興だって一番早かった。丸一年たっても何も進まない南相馬とは大違いだ。だから、仙台の親戚の家に避難してたまおちゃん、そりゃあもう都会的な生活を楽しんでいたと思いでんんでいたのだ。それは真波中三年一組のみんなも同じで、数か月ぶりに登校してきたまおちゃんは、朝から放課後までずっと、「サンドイッチマンみた？」「狩野英考みた？」「マギー慎司みた？」と、聞かれ通しだった。

「んでも、ピザ。ピザ頼むと家にくんの」

「え、マジで？」